特集 ともに生きる

現在、北区には、身体や視聴覚、知的、精神など何らかの障害のある方が約一万四千人暮らしています。また、今年の秋には、DPI世界会議札幌大会が開かれ、国内外から障害のある方や福祉関係者らが札幌を訪れます。障害のある方はもちろん、お年寄りや子どもたちなど、誰もが安心して楽しく暮らせるまちへ――。区内には、そんな願いを込めてさまざまな取り組みをしている人たちがいます。今月は、その一部を紹介しましょう。

地域が、一丸となって取り組んでいます

拓北・あいの里地区で活動する「くらしねっと」は、同地区の福祉のまち推進センターや福祉施設、養護学校、地域の人たちで作るグループ。誰もが安心して暮らせる地域を目指して、さまざまな活動をしています。

いろいろな遊びを通して、障害のある方と地域の人たちとの交流を進めようと、「くらしねっと」が今年五月から月一回土曜日に行っているのが「あそぶ会」です。この活動を思い立ったきっかけは、事務局長の今村隆俊（いまむらたかとし）さんが、障害のある子もない子も一緒に遊ぶ学童保育所を舞台としたドキュメンタリー映画を見たこと。自分たちにも何かできるはずと、メンバーに呼び掛け実現しました。

七月六日、北海道拓北養護学校体育館で行われた「第三回あそぶ会」には、同校児童のほか、地域に住む幼児や小学生とその父母、市内の短大生のボランティアなど、合わせて百五十人以上が参加しました。この日は、心身の発達を促す音楽療法を取り入れ、歌を歌ったり、楽器を鳴らしたりと、

▲「あそぶ会」を提唱した今村さん（左）も一緒になって遊びます

▲障害がある子もない子もボランティアも、みんなが一緒になって楽しみました

▶受け付けを担当したのは、拓北・あいの里地区福祉のまち推進センターの皆さん